



# 中し研だより

令和5年 9月号(No.2) 発行 LD等支援教育研究会

広報担当:上田俊佑(北総合支援学校)

## 中し研夏季研修会のご報告

8月2日(木) 9:30~ 京都市総合教育センターにて、夏季研修会を行いました。お忙しい中、約80名の方が参加していただきました。ありがとうございました。

今回の研修では、「伏見工業高等学校や京都奏和高校における通級による指導」や「通級指導教室との連携」に焦点を当てた研修となり、3人の先生方からお話を聞かせていただきました。

### 「伏見工業高等学校における通級による指導」 伏見工業高等学校 岡村 先生

岡村先生がこれまで担当された10名の生徒一人ひとりの授業実践の報告を通して、生徒と関わる中で大切にされていることや校内での連携についてお話いただきました。

実態が異なるため授業内容は一人ひとり違いますが、「**自分を知る→自分で目標を立てる→目標に向けてできることを考えて実践する→ふりかえる→改善する**」という流れを大切にされているというお話がありました。特にふりかえることは大切で、ふりかえることで自己理解が深まったり、工夫したいという思いが芽生えたりして、生徒が変容していく姿が見られたとのことでした。通級以外での様々な場面での生徒観察にも重きを置き、本人に関わる人たちへの情報発信や情報共有を通して連携を行っているとのこともありました。それぞれの役割の中で生徒に寄り添い、卒業後に向けて必要な力をつけていくことは中学校にも通じる部分があり、大変勉強になりました。



### 「京都奏和高校の通級指導教室の取り組み」 京都奏和高校 小槇先生

通級指導対象生徒を学年、担任や通級担当とでアセスメントの上検討し、本人の意思(やりたい変わりたい)を確認して決定している。**お互いの意見をしっかりと共有して、丁寧**にしている。

#### 京都奏和高校通級指導 実践事例について

- ・ になりたい自分を一緒に丁寧に考え、キャリア実践(通級)につないでいる
- ・ 自己理解のために、振り返り(学期、行事、年間)を大切にされている
- ・ 日頃から、授業や行事でさりげないサポートをされている
- ・ 校外学習など、自分達で考えて実践、経験する機会を設けておられる
- ・ 連携を大切にし、担任・学年の思いを踏まえた指導を実践されている



## 「通級指導教室との連携」 京都奏和高校 西本先生

中学校勤務から京都奏和高校準備室に異動して、現在は、京都奏和高校2年生の学年主任をされています。初めに、「ヤンチャな生徒は、行動や口に出すので、わかりやすい」が「不登校の生徒は、口に出さないで、自分の思っていることや考えていることがわからない」という言葉が印象に残っています。

自己認知できるような支援を心掛けているようです。本人の「強み」「弱み」を一緒に考えて、実際に一緒に行動しているとおっしゃっていました。

様々な企画をすることで、生徒たちの新たな様子が見られる。トランプ大会や球技大会（卓球・ドッチボール）で、これまで経験してこなかったようなことを通して、学ぶこともあるようです。



## コラム

### 『 個別の指導計画が子供たちの中心に 』

個別の指導計画の作成に困っていませんか？

個別の指導計画は「生徒理解や支援のためのツール」です。

開いて、更新して、つないでいくものです。しかし、なかなか活用していくのが難しいという声を聞きます。

本人・保護者・教員の思いを書いたつもりが・・・ファイルの中で眠っていたりしませんか？  
今年の中L研の総会で個別の指導計画（中L研版）を提案しました。

#### 特徴

- ・生徒の変化・変容を一目で振り返ることができるよう、3年間で1つのものになっています。
- ・学習面（9教科）の記入欄を1つにすることで、教科横断的な目標を立てることができます。

中L研総会后には、複数の先生方より「校内で資料を共有したい。」「次年度から使いたい」等のお声をいただきました。

これからも中L研において個別の指導計画をより良いものにするために研究していきます。

すでに中L研版の書式を使用されている先生方、是非ご意見をください。

そして、生徒を中心にしたものをつくっていきましょう。

個別の指導計画（中L研版）に関するお問い合わせは大宅中学校の堀野までお願いいたします。

## オススメ書籍紹介

### 【1】 『通常の学級で行う特別支援教育』

中学校 ユニバーサルデザインと合理的配慮でつくる授業と支援』

花熊 暁・米田和子 編著 明治図書

#### (出版社紹介文)

『すべての子どもの「個のニーズ」に応じた授業づくり』

中学校におけるユニバーサルデザイン (UD) の授業づくり実践書。

UDは「個」から出発する特別支援教育と「授業」から出発する教科教育の融合であり、教科担任制をとり「授業」の専門性が高い中学校だからこそ、質高く教科の違いを超えた共通のUD視点を示している。



### 【2】 人的環境のユニバーサルデザイン

～ 子どもたちが安心できる学級づくり ～

阿部利彦 × 赤坂真二 × 川上康則 × 松久真実 東洋館出版社

#### (出版社紹介文)

『「気になる子」を気にしすぎる子ども」「友だちを傷つける子ども」

「愛着に課題がある子ども」「険悪な関係の子ども」

「何らかの配慮が必要な子ども」など・・・どのクラスにもこのような子どもたちはいると思われれます。しかし、この子どもたちに教師がケアをせずにいると、次第にクラスは荒れ、いじめが起きやすくなり、学級崩壊へとつながるかもしれません。

そのような子どもたちも含め、クラス全員が安心して学べる場をつくる。

これが「人的環境のユニバーサルデザイン」です。

本書では、子どもたちの心理や置かれた環境から行動の原因をさぐり、さまざまな事例を踏まえ、具体的な手立てを解説します。



通常学級において、学習や対人関係に困りを抱えている生徒たちだけでなく、全ての生徒が笑顔で安心して学校生活が送れるように、中L研では「ユニバーサルデザイン・UD」についても部会を設け研究をしています。

近年の不登校生徒の増加は深刻な課題です。その多くが学習や対人関係の困りに起因しています。不登校になってからの対応に追われるのではなく、不登校にならないために、『どの子も「分かる」「できる」授業』や『どの子も安心して過ごせるクラスづくり』について学び実践していくことが、今こそ私たち教師に求められているのではないのでしょうか。この2冊はその研鑽に大変参考になる本です。

(伏見中学校 玉置宣子)